

事務事業 No./名 称	■サービス部門 都整-49 □支 援 部 門		施設整備事業(終末)					
主管課	浄化センター	関連課	下水道課					
分野名	下水道・河川							
目標 (目標値)	老朽化した七里ガ浜浄化センターの再構築を図る。							
人口等の データ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備 考			
	人 口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)			
	世 帯 数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯				
	事業の対象者数							
運営資源 状 況	決算値(千円)	927,930	1,206,650	1,040,460				
	(国・県)	528,813	647,025	593,196				
	(負担金等)	355,600	477,200	397,515				
	(一般財源)	43,517	82,425	49,749				
	人員配置数	2.0	2.0	2.0				
	人件費(千円)	17,135	17,877	17,841				
	協働の パートナー							
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	945,065	1,224,527	1,058,301	対象者1人は水洗化人口 で計算 20年度: 70,348人 21年度: 70,551人 22年度: 70,680人			
	市民1人当 りの経費(円)	5,334	6,931	5,997				
	対象者1人 当りの経費(円)	13,371	17,357	15,044				
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名							
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)	
		目標値						
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値						

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。		②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。	
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。		④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。	
小事業名	H22決算値	評価 適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)		⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	
施設整備事業	927,930千円	①効率性	○	②妥当性	○	⇒ ■A □B □C □D □E
	事業の概要	耐用年数を超えた七里ガ浜浄化センターの改築工事業務。				
		①効率性		②妥当性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性		②妥当性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性		②妥当性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性		②妥当性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性		②妥当性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)					
H22年度の課題	改築工事は、既設設備を運転しながら更新するため、高い技術力が要求される。				
課題解決のための取組	毎週、工程会議を実施し、進捗状況・施工方法・時期、仮設計画等について、市、日本下水道事業団、施工業者、運転管理委託業者で綿密な打合せを行ない問題解決を図った。				
未解決の課題	工事が完了するまで、老朽化した施設の維持に万全を期す。				
今後の方針	機械・電気設備の改築更新を国庫補助事業で計画的に実施していく。				
今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	⇒	A	※ □事業完了	課長名 浄化センター所長 原秀広

個別事業の概要

[illegible]